

『生成意味論入門』

[問題解答例]

第1章 意味論とは？

【問題1】 (p. 10)

- (23) a. I like colorless red fabric.
b. The police accidentally chased the thief.
- (24) a. John intentionally murdered Mary.
b. I have a male uncle.

(23a, b) は、矛盾的な意味関係を持った表現を含む文である。(23a) では、修飾語 colorless と red は意味的に矛盾しており、(23b) では、述語 chase は「意図的に追いかける」ことを意味するが、この意味と accidentally の意味に矛盾を生じている。(24a, b) は、冗長的な意味関係を持った表現を含む文である。(24a) では、述語 murder は「意図的に殺す」ことを意味するが、この意味には intentionally の意味が含まれているので、冗長的である。(24b) では、名詞 uncle は男性であることを含意しているため、male を修飾語として付け加えるのは冗長的である。

第2章 語彙意味論

【問題1】 (p. 17)

- (7) a. John pushed the car #in an hour/for an hour.
b. John pushed the car to the gas station in an hour/#for an hour.

(7a) において、push the car は活動動詞なので、「車を押していた」時間の長さを表す for an hour とは相性がいいが、「到達点」を持たないので、経過を表す in an hour と共に用いられると、変則的である。これに対して、(7b) においては、to the gas station が加えられているので「到達点」が存在し、「そのガソリンスタンドまで車を押す」のにかかった時間を表す in an hour を用いることはできるが、逆に、行為が均一ではなくなっているため、for an hour とは相性が悪くなる。

【問題 2】 (p. 20)

(13) a. He is thinking about Jones.

b. He thinks that Jones is a rascal.

(13a) で用いられている **think** は、進行形になっていることから、動作動詞であり、「何かを意識的に思っている」ことを意味している。また、この行為には「到達点」は存在しないので、ヴェンドラーの分類に従えば、活動動詞ということになる。これに対して、(13b) で用いられている **think** は、「何かを意識的に思っている」というわけではなく、「受動的にーと思われる」ことを意味している。ヴェンドラーの例えを用いると、(13b) は、(13a) と異なり、思う主体である **he** が眠っている状態であっても、真になりうる。したがって、ヴェンドラーの分類に従えば、状態動詞ということになる。このことは、(13b) が、(13a) とは異なり、進行形で用いることができないことから証拠付けられる。

(i) #He is thinking that Jones is a rascal.

【問題 3】 (p. 20)

(14a) のように、**see** が **at that moment** と共起できることから、一つには、到達動詞に分類することができる。また、(14b) の **see** の使い方も、(9c) の現在完了形で用いられた **win the race** と同様、「たった今見た／見えた」という到達動詞としてのものである。これに対して、(15) の場合の **see** は、時間の長さを表す **how long** や **all the time** と共起できることから、活動動詞もしくは状態動詞のどちらかということになるが、この場合の **see** は、(13b) の **think** と同様、「受動的に見た／見えた」という意味であり、したがって状態動詞と考えるのが妥当である。このことは、(16) において、**see** が現在形で用いることができ、さらに **still** を付け加えることができることから、状態動詞であると言える。

【問題 4】 (p. 28)

(35) の対において、(35b) では、**give** 「与える」が意図的動作を表し、主語の **John** は動作主として働いているために、**so that** ~ 表現と共に用いることができるが、(35a) では、**lose** 「なくす」が単に受動的動作を表すため、**John** は動作主としては機能しておらず、したがって **so that** ~ 表現と共に用いられると変則的となる。また、(36) の対において、(36b) では、**make** 「ーさせる」が意図的使役動作を表し、主語の **John** は動作主として働いているために、**intentionally** と

共に用いることができるが、(36a) では、strike 「一のように思われる」が受動的判断を表すため、John は動作主としては機能しておらず、したがって intentionally と共に用いられると変則的となる。

【問題 5】 (p. 29)

- (38) a. [Event CAUSE ([Agent Bill], [Event GO ([Theme the rock], [Goal the hole])])]
b. [Event CAUSE ([Agent Herman], [State BE ([Theme the book], [Loc the shelf])])]
(39) a. [Event GO ([Theme John], [Goal the pool])]
b. [Event CAUSE ([Agent John], [Event GO ([Theme John], [Goal pool])])]

(40) が変則的であることから、(39a) において John は動作主の役割を担っておらず、この文は「ジョンが意図せずプールに落ちてしまった」ことを意味する。それに対して、(39b) では、himself が drop の目的語として挿入され、John は動作主の働きをしている。したがって、(40) は himself を drop の目的語として補えば、容認可能な文となる。

【問題 6】 (p. 30)

- (41) a. [State BE ([Theme the meeting], [Loc 6:00])]
b. [Event GO ([Theme Ron's speech], [Source 2:00], [Goal 4:00])]
c. [Event CAUSE ([Agent we], [Event GO ([Theme the meeting], [Source Tuesday], [Goal Thursday])])]
d. [Event CAUSE ([Agent we], [State BE ([Theme the meeting], [Loc 6:00])])]

【問題 7】 (p. 31)

- (43) a. [State BE ([Theme the doll], [Loc Beth])]
b. [Event GO ([Theme the doll], [Goal Beth])]
c. [Event GO ([Theme the doll], [Source Beth])]

receive と lose の主語に位置する項は動作主としては働かないことに注意せよ。

【問題 8】 (p. 31)

- (45) a. [Event CAUSE ([Agent Amy], [State BE ([Theme the doll], [Loc Amy])])]
b. [Event CAUSE ([Agent Beth], [Event GO ([Theme the doll], [Goal Beth])])]
c. [Event CAUSE ([Agent Amy], [Event GO ([Theme the doll], [Source Amy], [Goal Beth])])]

- d. [Event CAUSE ([Agent Beth], [Event GO ([Theme the doll], [Source Amy], [Goal Beth])])]

【問題 9】 (p. 31)

- (46) a. [Event CAUSE ([Agent Amy], [Event GO ([Theme the doll], [Source Amy], [Goal Beth])])]
b. [Event CAUSE ([Agent Beth], [Event GO ([Theme the doll], [Source Amy], [Goal Beth])])]

【問題 10】 (p. 32)

- (47) a. [Event CAUSE ([Agent Amy], [Event GO ([Theme the doll], [Source Amy], [Goal Beth])]) & [Event GO ([Theme \$5], [Source Beth], [Goal Amy])])]
b. [Event CAUSE ([Agent Beth], [Event GO ([Theme the doll], [Source Amy], [Goal Beth])]) & [Event GO ([Theme \$5], [Source Beth], [Goal Amy])])]

【問題 11】 (p. 32)

- (49) a. [Event CAUSE ([Agent Max], [Event GO ([Theme an apartment], [Source Max], [Goal Harry])]) & [Event GO ([Theme \$197 a month], [Source Harry], [Goal Max])])]
b. [Event CAUSE ([Agent Harry], [Event GO ([Theme an apartment], [Source Max], [Goal Harry])]) & [Event GO ([Theme \$197 a month], [Source Harry], [Goal Max])])]

動詞 **rent** は賃借関係を表すが、**sell-buy** とは異なり、賃借の移動がどちらの方向であっても、**rent** が用いられる。

【問題 12】 (p. 33)

- (50) a. [State BE ([Theme the answer], [Loc Max])]
b. [Event CAUSE ([Agent Dave], [Event GO ([Theme the proof], [Source Dave], [Goal his students])])]

know は状態動詞で、その項に動作主は関わっていないが、**explain** は意図的行為を表しているため、その項に動作主が存在する。

【問題 13】 (p. 33)

- (51) a. [State BE ([Theme Elise], [Loc a pianist])]
b. [Event GO ([Theme Elise], [Goal a mother])]

【問題 1 4】 (p. 34)

(52b) [State BE ([Theme John], [Loc angry])]

(53b) [Event GO ([Theme George], [Goal angry])]

(54b) [Event GO ([Theme Harry], [Source elated], [Goal depressed])]

(55) a. [Event CAUSE ([Agent Sol], [Event GO ([Theme Gary], [Goal a celebrity])])]

b. [Event CAUSE ([Agent Sol], [State BE ([Theme Gary], [Loc a celebrity])])]

【問題 1 5】 (p. 39)

(71) He almost brought John to the party.

(71) の一つの解釈は、「彼はジョンをパーティーに連れて来ようとして、パーティー会場の近くまで来た」という意味であり、もう一つの解釈は、「彼はもうちょっとでジョンを強制か説得か何かの手段でパーティーに連れて来させることができた」という意味である。この文の意味表示は以下の通りである。

(i) [Event CAUSE ([Agent he], [Event GO ([Theme John], [Goal the party])])]

この二つの解釈は、almost が CAUSE 関数を修飾するのか、GO 関数を修飾するのかによって得られる。上の前者の意味は、GO 関数を修飾する場合、後者の意味は CAUSE 関数を修飾する場合に得られる。

【問題 1 6】 (p. 42)

(77) John almost built a house.

(77) の一つの解釈は、「ジョンは、家を建てていたが、その行為がほとんど家ができあがるまでに進んだ」という意味であり、もう一つの解釈は、「ジョンは、家を建てる計画を立て、もう少しで、家を建て始めるところであった」という意味である。この二つの解釈は、almost が (76) の DO 関数を修飾するのか、BE 関数を修飾するのかによって得られる。上の前者の意味は、BE 関数を修飾する場合、後者の意味は DO 関数を修飾する場合に得られる。

【問題 1 7】 (p. 43)

(82) He nearly went to New York.

(82) の一つの解釈は、「彼はニューヨークへ行こうと思ったが、結局気が変わった」という意味であり、もう一つの解釈は、「彼はニューヨークへ向けて出発し

たが、途中のホーボーケンで降りてしまった」という意味である。この二つの解釈は、*nearly* が (81) の CAUSE 関数を修飾するのか、BE 関数を修飾するのかによって得られる。上の前者の意味は、CAUSE 関数を修飾する場合、後者の意味は BE 関数を修飾する場合に得られる。ちなみに、(82) のあいまい性は、(79) の意味表示からも得られる。すなわち、前者の意味は、*nearly* が CAUSE 関数を修飾する場合に得られ、後者の意味は、GO 関数が有界の軌道を表す着点を含むことから、*nearly* がこの関数を修飾する場合に得られる。

【問題 18】 (p. 45)

(84b) [Event DO ([Agent Floyd], [Patient the glass])] & [Event GO ([Theme the glass], [Goal the floor])]

【問題 19】 (p. 46)

(89) John broke the window.

(89) の一つの解釈は、John を動作主と解するもので「ジョンは意図的に窓をこわした」という意味である。この意味表示は以下のようなになる。

(i) [Event CAUSE ([Agent John], [Event GO ([Theme the window])])]

もう一つの解釈は、John を手段と解するもので「偶然にジョンが窓をこわしてしまった」という意味である。この意味表示は以下のようなになる。

(ii) [Event CAUSE ([Inst John], [Event GO ([Theme the window])])]

【問題 20】 (p. 49)

- (98) a. *amuse*: (Theme, Exp)
 b. *see*: (Exp, Theme)

【問題 21】 (p. 50)

(103) a. *plant*: (Agent, Theme, Loc) b. *plant*: (Agent, Loc, Theme)



(103b) では、(103a) とは異なり、「庭が木々でいっぱいになった」ことを含意する。

(104) a. *swarm*: (Theme, Loc) b. *swarm*: (Loc, Theme)

(104b) では、(104a) とは異なり、「蜂が庭いっぱい群がった」ことを含意する。

【問題 2 2】 (p. 51)

(105) a. *teach*: (Agent, Goal, Theme) b. *teach*: (Agent, Theme, Goal)

NP	NP	NP

(106) a. *show*: (Agent, Goal, Theme) b. *show*: (Agent, Theme, Goal)

NP	NP	NP

(105a) では、(105b) とは異なり、前半の文が「子供に算数を教えた結果、子供は算数をマスターした」ことを含意するので、後半で「しかし決して学んでいない」と続けるのは矛盾となる。また、(106a) では、(106b) とは異なり、前半の文が「ジェーンに誤りを示した結果、ジェーンはその誤りを理解した」ことを含意するので、後半で「しかしその誤りがわからなかった」と続けるのは矛盾となる。

【問題 2 3】 (p. 53)

(112) a. The bookcase was being touched by John.

b. The car was hit by John (?with a crash).

これらの文において、John を単に主題とする解釈では、主題階層条件に違反してしまう。というのは、これらの文の主語である *the bookcase* と *the car* は場所もしくは着点の意味役割を担っているため、主題階層上、John の意味役割よりも高くなってしまふからである。これに対して、John が動作主の解釈を受ける場合には、この意味役割は、主題階層上一番高いので、主題階層条件に違反しない。

【問題 2 4】 (p. 53)

(115) a. #Five dollars are cost by the book.

b. #Two hundred pounds are weighed by Bill.

ジャッケンドフの分析によれば、(115a, b) の派生主語である *five dollars* と *two hundred pounds* は、場所の意味役割を担い、by ~ 句の *the book* と *Bill* は主題の

意味役割を担っている。したがって、これらの文は (110) の主題階層条件に違反する。というのは、by ~ 句に生起する the book と Bill の意味役割は、派生主語が担う意味役割よりも主題階層上低くなっているからである。よって、(115a, b) の文は、変則的である。

【問題 2 5】 (p. 55)

(119) a. #Harry is struck/impressed by Bill as pompous.

b. Bill is regarded by Harry as pompous.

(119a) においては、派生主語である Harry は、経験主の意味役割を担い、by ~ 句の Bill は主題の意味役割を担っている。したがって、派生主語の方が by ~ 句よりも主題階層上高いことになり、(110) の主題階層条件に違反する。これに対して、(119b) においては、派生主語は Bill で、主題の意味役割を担い、by ~ 句の Harry が経験主の意味役割を担っている。したがって、派生主語の方が by ~ 句よりも主題階層上低く、(110) の主題階層条件を満たしている。このようにして、(119a, b) の変則性に関する違いは、主題階層条件に違反しているか否かで説明することができる。

【問題 2 6】 (p. 57)

(123) a. Beavers build dams. (ビーバーはダム (堰) をつくる)

b. Dams are built by beavers. (ダム (堰) はビーバーによってつくられる)

この二つの文は、能動文とそれに対応する受動文の関係にあり、二項述語である build が動作主に beavers、そして主題に dams を取っている。したがって、述語と項の主題関係については、両文とも同じ意味関係を表している。しかしながら、この二つの文では、何が話題として働いているかに関して違いがある。(123a) が beavers について語られた文であるのに対して、(123b) が dams について語られた文である。これらの文は、主語が冠詞の付かない複数形の名詞の形をしていることから、いわゆる総称文 (generic sentence) と呼ばれるもので、主語についての一般的性質を表している。したがって、(123a) が beavers についての一般的習性を述べているのに対して、(123b) は dams についての一般的特性を述べているという違いがある (よって、(123b) は事実とは異なった意味を持つ偽の文ということになる)。

【問題 2 7】 (p. 59)

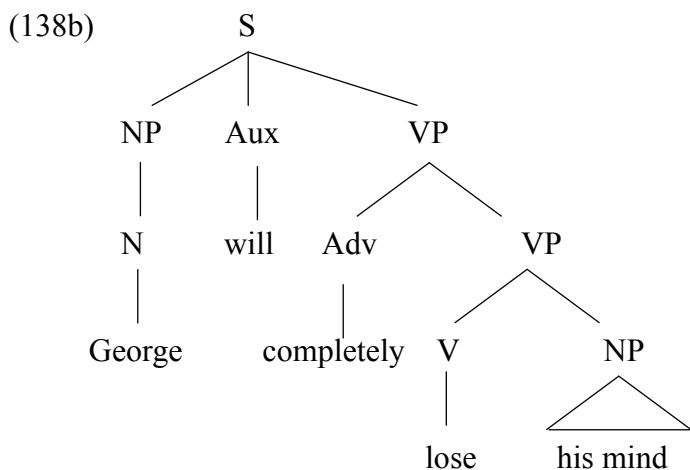
(125) b. Cleverly/Clumsily(,) John dropped his cup of coffee.

c. John dropped his cup of coffee cleverly/clumsily.

(125b) の文頭に生起する *cleverly/clumsily* は主語指向副詞で、主語の *John* を形容したものである。したがって、「自分のコーヒーカップを落とすなんて、ジョンは器用／不器用だ」というような意味を持つ。これに対して、(125c) の *cleverly/clumsily* は様態副詞で、コーヒーカップの落とし方について形容したものである。したがって、「ジョンは器用な／ぎこちない仕方での自分のコーヒーカップを落とした」というような意味を持つ。

【問題 2 8】 (p. 65)

この文の統語構造は、以下のようになる。

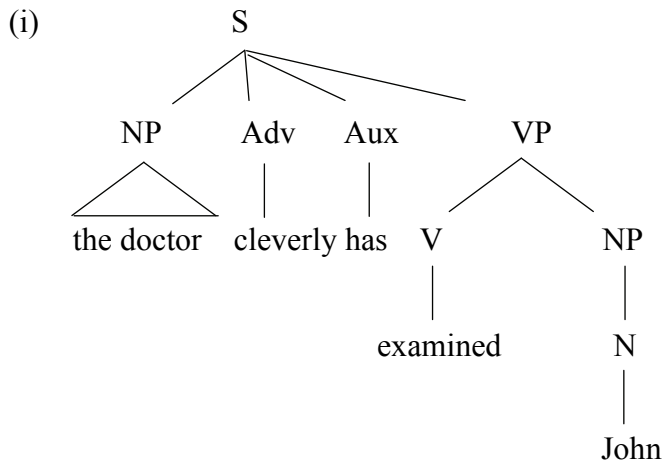


この構造において、様態副詞 *completely* は、それと姉妹関係にあり、また隣接する VP を正しく修飾することができる。

【問題 2 9】 (p. 65)

(143) The doctor cleverly has examined John.

この文では、*cleverly* が助動詞 *has* の前に生起しているので、主語指向副詞と解釈される。したがって、この文の意味は「ジョンを診察したことにおいて、その医者は賢明である」となる。この文の統語構造は以下のようになる。



この構造において、cleverly は the doctor と姉妹関係にあり、かつ隣接している
 ので、この NP を修飾できる。これに対して、cleverly は、VP と隣接していな
 いが故に、この範疇を修飾できない。したがって、この副詞は様態副詞とは解
 釈できない。

(144) John cleverly has been examined by the doctor.

(144) では、(143) とは異なり、主語指向副詞である cleverly は John を修飾し
 ている。したがって、この文の意味は「医者に診察してもらったことにおいて、
 ジョンは賢明である」となる。

【問題 3 0】 (p. 69)

(152) a. The doctor may/must/won't examine John.

b. John may/must/won't be examined by the doctor.

この場合、may は「許可」、must は「義務」そして won't は「拒否」を意味し
 ているが、これらの属性が (152a) では「医者」に帰せられているのに対して、
 (152b) では、「ジョン」に帰せられている。したがって、(152a) は、「医者はジ
 ヨンを診察してもよい／しなければならない／しない」という意味であるの
 に対して、(152b) は、「ジョンは医者に診察されてもよい／されなければならない
 ／されない」という意味である。

【問題 3 1】 (p. 72)

(161) a. She is a blonde and beautiful dancer.

b. She is a fast and beautiful dancer.

c. #She is a blonde and fast dancer.

(161a) では、beautiful dancer は、(159b) のように、「美しくかつダンサーである人」という意味になる。なぜなら、beautiful と等位接続された blonde 「金髪の」は dancer とは、以下のような関係にあるからである。

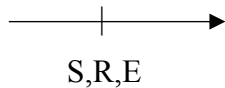
(i) $\exists x[x \text{ is a dancer} \ \& \ x \text{ is blonde}]$

したがって、この場合、beautiful dancer は「美しく踊るダンサー」とは解釈できない。これに対して、(161b) では、beautiful dancer は、(160) のように、「美しく踊るダンサー」という意味になる。なぜなら、beautiful と等位接続された fast は、dancer とは「早く踊るダンサー」という「副詞+動詞」の関係にあるからである。(161c) が変則的であるのは、blonde が dancer に対して (i) の関係にあるのに対して、fact が dancer に対して「副詞+動詞」の関係にあるために、名詞と異なった意味関係にある二つの形容詞が等位接続されているためである。

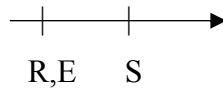
第3章 論理的意味

【問題1】 (p. 82)

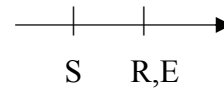
(1) a. I see John.



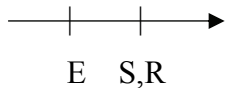
b. I saw John.



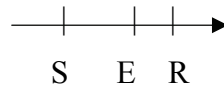
c. I will see John.



(4) a. I have seen John.

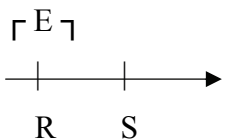


b. I will have seen John.

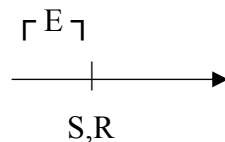


【問題2】 (p. 83)

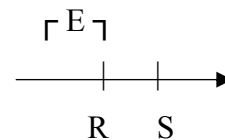
(8) a. I was seeing John.



b. I have been seeing John.

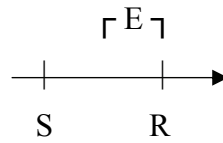
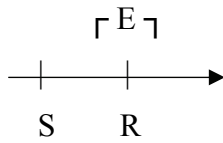


c. I had been seeing John.



d. I will be seeing John.

e. I will have been seeing John.



【問題 3】 (p. 85)

(10) I had mailed the letter when John came and told me the news.

この文において、when 節は主節の R を修飾しており、したがって、この文は、「ジョンが来てその知らせを私に教えてくれた」時点では、すでに「私はその手紙を送ってしまっていた」という意味になり、when 節が表す時点と「私が手紙を送った」事象の時点が一致する訳ではない。

【問題 4】 (p. 86)

(15) #I had mailed the letter when John has come.

a. “I had mailed the letter”: $E_1 - R_1 - S$

b. “John has come”: $E_2 - R_2, S$

この場合二つの節の R は同一時点を表していない。というのは、(15a) では、R は S より前に位置し、(15b) では、R は S と同一時点にあるからである。よって、(15) は「参照の時点の永続性」に違反する。

(16) a. I have not decided which train I will take.

i. “I have not decided”: $E_1 - S, R_1$

ii. “which train I will take”: $S, R_2 - E_2$

(16ai, ii) 共に R は S と同一時点にあり、「参照の時点の永続性」に合致する。(16aii) の will はこの場合未来時制を表しているのではなく、現在時制を表していることに注意してほしい。

(16) b. #I did not decide which train I will take.

i. “I did not decide”: $E_1, R_1 - S$

ii. “which train I will take”: $S, R_2 - E_2$

(16bi, ii) では、R が一致していない。というのは、(16bi) では R が S の前に位置しているのに対して、(16bii) では R は S と一致しているからである。よって、この文は、「参照の時点の永続性」に違反する。

【問題 5】 (p. 87)

(17) a. I know that you will be here.

- i. “I know”: S, R_1, E_1
- ii. “you will be here”: $S, R_2 - E_2$

この場合、両節共に R は S と一致していることから、「参照の時点の永続性」に合致している。

(17) b. I knew that you would be here.

- i. “I knew”: $E_1, R_1 - S$
- ii. “you would be here”: $R_2 - E_2 - S$

この場合、両節共に R は S より前に位置していることから同一の時点を表すことができ、「参照の時点の永続性」に合致している。この文が意味するのは、「あなたが将来ここにいるだろう」ことが、ある過去の時点に「私は知っていた」ということになる。

【問題 6】 (p. 88)

(20) I knew that you had been here.

この場合、「あなたがここにいた」という事象は、「私が知っていた」時点よりも、前に起きたことを意味している。したがって、「いた」が従属節で用いられた場合は、発話の時点 S とは無関係に、単に事象の時点 E が参照の時点 R より前にあることを意味する。

【問題 7】 (p. 90)

(23) a. JOHN didn't kiss Mary.

(誰かがメアリにキスしたが、それはジョン以外の人であった)

b. John didn't kiss MARY.

(ジョンは誰かにキスしたが、それはメアリ以外の人であった)

c. JOHN didn't kiss MARY.

(誰かが誰かにキスしたのは事実だが、それは、ジョンとメアリのペアではなかった)

d. John didn't KISS Mary.

(ジョンはメアリに何かをしたが、それはキスするという行為ではなかった)

【問題 8】 (p. 92)

(28b) は、「私は首相を暗殺しないことを約束する」という意味で、実際に約束を宣言しているが、(28a) では、「私は首相を暗殺すると約束していない」という意味で、約束の事実を否定している。そして、(30) は「私は首相を暗殺しないと約束していない」という意味で、これも約束の事実を否定しているが、その約束の内容が (28a) と異なっている。

【問題 9】 (p. 94)

(34) a. I will force you not to marry anyone.

b. I won't force you to marry anyone.

(34a) が no one が P_2 を作用域に取った場合の言い換えで、(34b) が no one が P_1 を作用域に取った場合の言い換えである。(34a) は「私はあなたに誰とも結婚しないよう強制する」という意味であり、(34b) は「私はあなたに誰かと結婚するよう強制したりはしない」という意味になる。

【問題 10】 (p. 95)

(37) において、not が P_2 を作用域に取る場合、その意味は「ジョンは妻をたたかない、なぜなら愛しているからだ」となる。これに対して、not が P_1 を作用域に取る場合、その意味は「ジョンは愛しているから妻をたたくということはない」となる。(39) において、not が he talked のみを作用域に取る場合、その意味は「彼は 10 時まで話さなかった」となる。これに対して、not が until ten o'clock を含む命題を作用域に取る場合、その意味は「彼は 10 時まで話したということはない」となる。

【問題 11】 (p. 99)

(51a) No boy is kissing a girl.:

(i) $\forall x[\text{boy}(x) \rightarrow \sim[\exists y[\text{girl}(y) \& \text{kiss}(x,y)]]]$

(ii) $\exists y[\text{girl}(y) \& \forall x[\text{boy}(x) \rightarrow \sim\text{kiss}(x,y)]]]$

(51b) Not every boy is kissing a girl.:

(i) $\sim[\forall x[\text{boy}(x) \rightarrow \exists y[\text{girl}(y) \& \text{kiss}(x,y)]]]$

(ii) $\exists y[\text{girl}(y) \& \sim[\forall x[\text{boy}(x) \rightarrow \text{kiss}(x,y)]]]$

(51a) について、(i) は「すべての x に対して、もし x が少年であれば、少女で

ありかつ x とキスする関係にある y は存在しない」ことを表している。(ii) は「ある y が存在し、 y は少女でありかつすべての x に対して、もし x が少年であれば、 y とキスする関係にある x は存在しない」ことを表している。(51b) については、(i) は「すべての x に対して、もし x が少年であれば、ある y が存在し、 y は少女でありかつ x とキスする関係にある、ということは真ではない」ことを表している。(ii) は「ある y が存在し、 y は少女でありかつすべての x に対して、もし x が少年であれば、 x が y とキスする関係にあるということは真ではない」ことを表している。ちなみに、(51a) は、(i) に対応する意味を存在量化子を用いて以下のようにも表すことができる。

$\sim[\exists x, y[\text{boy}(x) \ \& \ \text{girl}(y) \ \& \ \text{kiss}(x,y)]]]$

この表示は、「少年である x と少女である y がキスする関係にあるような x 、 y は存在しない」ことを表している。

【問題 1 2】 (p. 104)

a girl の特定読み：

$\exists x[\text{girl}(x) \ \& \ \sim\text{kiss}(\text{John}, x)]$

a girl の不特定読み：

$\sim[\exists x[\text{girl}(x) \ \& \ \text{kiss}(\text{John}, x)]]$

【問題 1 3】 (p. 104)

- (62) a. ?I didn't catch a fish, and it was ugly.
 b. ?I didn't catch a fish, and I didn't bring it home.
 c. I didn't catch a fish and bring it home.
 d. I didn't catch a fish, but Bill caught one.

(62a) では、it が a fish を指し示しうるためには、a fish は特定読みで解釈されなければならない。というのは、it のような代名詞が存在数量詞を指し示すためには、その存在が含意されていなければならないからである。(62b) においても、it は not の不透明領域内にあるが、a fish との指示関係に関しては、(62a) と変わるところはない。すなわち、a fish は特定読みにおいてのみ、it によって指し示すことができる。これに対して、(62c) では、a fish は特定読みでも不特定読みでも it によって指し示すことができる。これは、it が a fish と同じ not の不透明領域に属しており、以下に示す通り、この存在数量詞の変項として働く

ことができるからである。

(i) a. $\exists x[\text{fish}(x) \ \& \ \sim[\text{catch}(I, x) \ \& \ \text{bring-home}(I, x)]]$

b. $\sim[\exists x[\text{fish}(x) \ \& \ \text{catch}(I, x) \ \& \ \text{bring-home}(I, x)]]$

(ia) は a fish の特定読みを表し、「ある特定の魚が存在し、その魚を私が取って家に持ち帰ることはなかった」と解される。これに対して、(ib) は a fish の不特定読みを表し、「私は、何か魚を取って家に持ち帰ることはなかった」と解される。(62d) では、不定代名詞 one が用いられていて、a fish を指し示している。したがって、(62d) は、以下のように言い換えられる。

(ii) I didn't catch a fish, but Bill caught a fish.

この言い換えから明らかなように、(62d) の二つの文は、魚の指示性に関してお互いに影響を与えあうことなく、独立している。したがって、最初の文は a fish の指示性に関して、特定読みと不特定読みの両方が可能である。

【問題 1 4】 (p. 105)

(64) a. I didn't have a good time in France or England.

b. In France or England, I didn't have a good time.

(64a) では、選言表現の France or England が not の作用域内にあるために、「私はフランスでもイギリスでも良い時を過ごせなかった」という意味である。これはド・モルガンの法則 $\sim(A \vee B) = \sim A \wedge \sim B$ から明らかである。これに対して、(64b) では、France or England が not の作用域外に置かれているため、「私が良い時を過ごせなかったのは、フランスかイギリスのどちらかである」という意味になる。

【問題 1 5】 (p. 105)

(65) a. I didn't have a good time in (both) France and England.

b. In (both) France and England, I didn't have a good time.

(65a) では、連言表現の France and England が not の作用域内にあるために、「私はフランスとイギリスの両方で良い時を過ごすことはなかった」という部分否定の意味である。これはド・モルガンの法則 $\sim(A \wedge B) = \sim A \vee \sim B$ から明らかである。これに対して、(65b) では、France and England が not の作用域外に置かれているため、「フランスとイギリスのどちらにおいても、私は良い時を過ごさなかった」という意味になる。

【問題 1 6】 (p. 113)

he の共指示の読みの場合、本文でも説明した通り、「ジョンはジョンが頭がいいと思っており、ジョン以外の人にはジョンが頭がいいとは思っていない」と解釈される。これに対して、he の束縛変項の読みでは、「ジョンは自分が頭がいいと思っており、ジョン以外の人には自分が頭がいいとは思っていない」と解釈される。したがって、<ヒント>に与えられた状況 (i)、(ii) において、he の共指示の読みの場合、(i) が真で (ii) が偽ということになるが、he の束縛変項の読みでは、逆に、(i) が偽で (ii) が真ということになる。

【問題 1 7】 (p. 114)

(i) a. like (Bill, John's mother)

b. $\exists y[y = \text{Bill} \ \& \ \text{like}(y, y's \ \text{mother})]$

(ia) は (88a) に対応するもので、「ビルもジョンの母親を好いている」という意味である。(ib) は (88b) に対応するもので、この場合 his は変項 x として働いているので、(ib) でも変項として働いているが、(88b) とは別の存在量子子に束縛されているので、変項 y と表記してある。この意味するところは「ビルも自分の母親を好いている」というものである。ちなみに、生成文法理論の分野では、(ia) に対応する読みを「厳密読み」(strict reading) と呼び、(ib) に対応する読みを「スロッピー読み」(sloppy reading) と呼ぶのが習わしである。

【問題 1 8】 (p. 115)

(90) a. Only Lucie praised her father.

b. Only Lucie praised herself.

(90a) において her の共指示読みと束縛変項読みは、以下のように表すことができる ((84) に対応する意味表記は省略)。

(i) $P = \text{the set of the relevant people:}$

$\text{praise}(\text{Lucie}, \text{Lucie's father}) \ \& \ \forall y[(y \in P, y \neq \text{Lucie}) \rightarrow \sim \text{praise}(y, \text{Lucie's father})]$

(ii) $P = \text{the set of the relevant people:}$

$\exists x[x = \text{Lucie} \ \& \ \text{praise}(x, x's \ \text{father})] \ \& \ \forall y[(y \in P, y \neq \text{Lucie}) \rightarrow \sim \text{praise}(y, y's \ \text{father})]$

(i) が her の共指示の読みを表し、「ルーシーはルーシーの父親を褒め、ルーシ

ー以外の方はルーシーの父親を褒めなかった」と解釈される。これに対して、(ii) が her の束縛変項の読みを表し、「ルーシーは自分の父親を褒め、ルーシー以外の方は自分の父親を褒めなかった」と解釈される。したがって、例えば、(i)-(ii) において当該の集合 P を {ルーシー、ナンシー、メアリ} とした場合、誰が誰の父親を褒めたかに関して以下の関係が成り立つとする。

(iii) ルーシー → ルーシー、ナンシー → ナンシー、メアリ → ナンシー

(iv) ルーシー → ルーシー、ナンシー → メアリ、メアリ → ルーシー

そうすると、her の共指示の読みの場合、(iii) が真で (iv) が偽ということになるが、her の束縛変項の読みでは、逆に、(iii) が偽で (iv) が真ということになる。

(90b) においては、herself の束縛変項読みのみ可能で、以下のように表すことができる。

(v) P = the set of the relevant people:

$\exists x[x = \text{Lucie} \ \& \ \text{praise}(x, x)] \ \& \ \forall y[(y \in P, y \neq \text{Lucie}) \rightarrow \sim \text{praise}(y, y)]$

この表記は「ルーシーは自分を褒め、ルーシー以外の方は自分を褒めなかった」と解釈される。したがって、例えば、当該の集合 P を {ルーシー、ナンシー、メアリ} とした場合、誰が誰を褒めたかに関して (iii) や (iv) の関係が成り立つとすると、(90b) が意味するところによれば、(iii) が偽で (iv) が真ということになる。

【問題 19】 (p. 115)

(91) の Lucie praised herself は (ia) のように、そして Lili did は (ib) のように意味表記される。

(i) a. $\exists x[x = \text{Lucie} \ \& \ \text{praise}(x, x)]$

b. $\exists y[y = \text{Lili} \ \& \ \text{praise}(y, y)]$

したがって、(91) は、「ルーシーは自分を褒め、リリーも自分を褒めた」というスロッピー読みが得られる。

【問題 20】 (p. 116)

(95b) Only Churchill remembers that he gave the BST speech.

この文において he の共指示読みと束縛変項読みは、以下のように表すことができる。

(i) $P =$ the set of the relevant people:

$\text{remember}(\text{Churchill}, \text{give}(\text{Churchill}, \text{the BST speech})) \ \& \ \forall y[(y \in P, y \neq \text{Churchill}) \rightarrow \sim \text{remember}(y, \text{give}(\text{Churchill}, \text{the BST speech}))]$

(ii) $P =$ the set of the relevant people:

$\exists x[x = \text{Churchill} \ \& \ \text{remember}(x, \text{give}(x, \text{the BST speech}))] \ \& \ \forall y[(y \in P, y \neq \text{Churchill}) \rightarrow \sim \text{remember}(y, \text{give}(y, \text{the BST speech}))]$

(i) が **he** の共指示の読みを表し、「チャーチルはチャーチルが BST 演説を行ったのを覚えていて、チャーチル以外の方はチャーチルが BST 演説を行ったのを覚えていなかった」と解釈される。これに対して、(ii) が **he** の束縛変項の読みを表し、「チャーチルは自分が BST 演説を行ったのを覚えていて、チャーチル以外の方は自分が BST 演説を行ったのを覚えていなかった」と解釈される。例えば、(i)-(ii) において当該の集合 P を {チャーチル、ジョン、ビル} とした場合、誰が誰の BST 演説を行ったのを覚えているかに関して以下の関係が成り立つとする。

(iii) チャーチル \rightarrow チャーチル、ジョン \rightarrow ジョン、ビル \rightarrow ジョン

(iv) チャーチル \rightarrow チャーチル、ジョン \rightarrow ビル、ビル \rightarrow チャーチル

そうすると、**he** の共指示の読みの場合は、(iii) が真で (iv) が偽ということになるが、**he** の束縛変項の読みでは、逆に、(iii) が偽で (iv) が真ということになる。

(94) の文は、(95a) と同様、(ii) で表記された束縛変項読みのみを持つ。

【問題 2 1】 (p. 117)

(96) の **John expects to win** は (ia) のように、そして **Bill does** は (ib) のように意味表記される。

(i) a. $\exists x[x = \text{John} \ \& \ \text{expect}(x, \text{win}(x))]$

b. $\exists y[y = \text{Bill} \ \& \ \text{expect}(y, \text{win}(y))]$

したがって、(96) は、「ジョンは自分が勝つことを予期し、ビルも自分が勝つことを予期している」というスロッピー読みが得られる。

【問題 2 2】 (p. 119)

(104) **The men and the women both admire each other.**

この文では、**the men and the women** に **both** が付加されているので、**each** によるこの句が表す集合の分割は二分割でなければならない。したがって、{the men}

と {the woman} に分割される。よって、(104) は「その男たち全体とその女たち全体がお互いを褒めたたえ合っている」と解釈される。

【問題 2 3】 (p. 121)

上でも述べた通り、(104) では、the men and the women に both が付加されているので、each によるこの句が表す集合の分割は {the men} と {the woman} の二分割でなければならない。部分的相互読みは、この分割されたそれぞれの集合内で、「褒めたたえ合う」という行為が起きている場合である。したがって、この読みにおいては、「その男たちがお互いを褒めたたえ合い、そしてその女たちもお互いを褒めたたえ合っている」という意味になる。

【問題 2 4】 (p. 124)

(115) a. Charlie believes that the book that was burned was not burned.

b. Charlie believes that the dead man is alive.

これらの文は、the book that was burned 及び the dead man の不透明読みにおいては、(116) の文と同様、Charlie が矛盾した命題を信じていることになる。それに対して、これらの表現の透明読みにおいては、(115a, b) は以下のように表記される。

(i) $\exists x[x = \text{the book that was burned} \ \& \ \text{believe}(\text{Charlie}, \sim\text{be-burned}(x))]$

(ii) $\exists x[x = \text{the dead man} \ \& \ \text{believe}(\text{Charlie}, \text{alive}(x))]$

この読みにおいては、(i) は「燃やされた本があつて、チャーリーはその本が燃やされていないと信じている」と解され、また、(ii) は、「死んでしまった男性がいて、チャーリーはその人が生きてると信じている」と解され、どちらも矛盾なく解釈されている。

第 4 章 情報構造

【問題 1】 (p. 130)

(2b) John KILLED the duck.

a. 前提: $\lambda P[P(\text{John}, \text{the duck})]$

b. 主張: $\text{kill} \in \lambda P[P(\text{John}, \text{the duck})]$

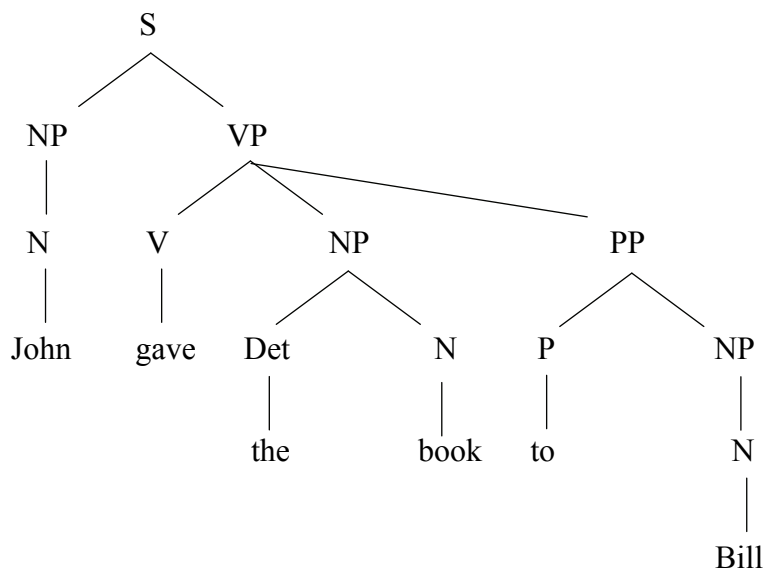
(3b) John killed the DUCK.

- a. 前提: $\lambda x[\text{kill}(\text{John}, x)]$
- b. 主張: $\text{the duck} \in \lambda x[\text{kill}(\text{John}, x)]$

【問題 2】 (p. 132)

- (9) a. John gave the book to BILL.
- b. John gave the BOOK to Bill.

この二つの文は、以下のような構造を持つ。



(9a) では Bill に強勢が置かれていることから、中核強勢規則により、この文の焦点は NP (例えば、Who did John give the book to? に対する答え) か PP (この場合、焦点が NP に置かれた場合と実質的に区別できないであろう) か VP (例えば、What did John do? に対する答え) かもしれない。それに対して、(9b) の場合には、book に強勢が置かれているので、この語を最も右側を取る句は直接目的語 NP である the book だけであり、したがって、中核強勢規則により、この NP のみがこの文の焦点ということになる。例えば、What did John give to Bill? に対する答えが、(9b) のように book にアクセントが置かれる。

【問題 3】 (p. 134)

(15) の yes-no 疑問文を発する話し手は、 $\lambda x[\text{write}(x, \text{Moby Dick})]$ を前提として話し手と聞き手によって共有されているものと想定し、話し手が聞き手に尋ね

ているのは、「『白鯨』を書いたのはディケンズなのかどうか」ということである。これに対して、(16a) は、(15) と前提を共有しており、「いいえ、それはメルビルである」と的確に答えている。しかしながら、(16b) では、(15) とは異なり、 $\lambda x[\text{write}(\text{Dickens}, x)]$ を前提として、「いいえ、それは『ディビッド・コパフィールド』である」と答えているので、的確な答えとはみなされない。

【問題 4】 (p. 136)

(20) Did John give the BOOK to Bill?

この yes-no 疑問文では、book に強勢が置かれているので、the book が焦点と解される。したがって、その応答文としては、この焦点を否定する (18b) が的確な答えである。(18a) は的確ではない。というのは、この文が否定している to Bill は (20) の疑問文では前提部分に入っているからである。また、(19) も的確な答えではない。というのは、(20) では動詞句は焦点とはみなされないからである (動詞句が焦点であるためには、中核強勢規則により、(17a) のように Bill に強勢がおかれなければならない)。

【問題 5】 (p. 136)

(21) a. Did the Red Sox beat the YANKEES?

b. Were the Yankees beaten by the RED SOX?

(22) No, the TIGERS.

(21a) では Yankees に強勢が置かれているので、the Yankees に焦点が置かれていると解することができる。したがって、(22) の応答文は、その焦点を否定するものと解されるので、「いいえ、レッドソックスはタイガースを負かしました」という意味になる。これに対して、(21b) では Red Sox に強勢が置かれているので、the Red Sox に焦点が置かれていると解することができる。したがって、(22) の応答文は、その焦点を否定するものと解されるので、「いいえ、ヤンキースはタイガースに負かされました」という意味になる。

【問題 6】 (p. 140)

(31) Maxwell didn't kill the JUDGE with a silver hammer.

この文では、judge に強勢が置かれているため、中核強勢規則により、この語を最も右側に含む句がこの文の焦点とみなされるが、そうすると、the judge のみ

がこの文の焦点となる。したがって、この文の解釈は、「マックスウェルが銀のハンマーで殺したのは裁判官ではなかった」となる。

【問題 7】 (p. 140)

(32) Karl doesn't write radical pamphlets in the BATHROOM.

- (i) a. 前提: $\lambda x[\text{Karl writes radical pamphlets in } x]$
 - b. 主張: $\sim[\text{the bathroom} \in \lambda x[\text{Karl writes radical pamphlets in } x]]$
- (ii) a. 前提: $\lambda x[\text{Karl does not write radical pamphlets in } x]$
 - b. 主張: $\text{the bathroom} \in \lambda x[\text{Karl does not write radical pamphlets in } x]$

(i) は、not が焦点と結びついた場合の読みの情報構造を表し、「カールはある場所で急進的な小論文を書く」ことが前提とされ、「その場所はトイレではない」がこの文の主張である。これに対して、(ii) は、not が焦点と結びついていない場合の読みの情報構造を表し、「カールはある場所で急進的な小論文を書かない」ことが前提とされ、「その場所とはトイレである」がこの文の主張である。

【問題 8】 (p. 142)

(36) d. John even gave his daughter a NEW bicycle.

f. John even GAVE his daughter a new bicycle.

(36d) では、even は new のみを修飾しているので、その意味は「ジョンは自分の娘に自転車をあげたが、それが中古などではなく新しい自転車でさえあった」ようになる。(36f) では、even は gave のみを修飾しているので、「ジョンは自分の娘のために新しい自転車を手に入れたが、その自転車は自分自身が娘に貸したり、誰かから借りたりしたのではなく、与えさえした」のような解釈になる。

【問題 9】 (p. 143)

(36e) John even gave his daughter a new BICYCLE.

even は焦点と結びつくことから、この文は、以下に示す通り、どの部分が焦点に解されるかによって、四通りに解釈できる。

1) bicycle; 2) a new bicycle; 3) gave his daughter a new bicycle; 4) 文全体

1) と 2) の解釈は、(35c) John gave his daughter even a new BICYCLE が持つ意味と同様である。3) の解釈は「ジョンは何か他にもしたのだけれども、自分の娘

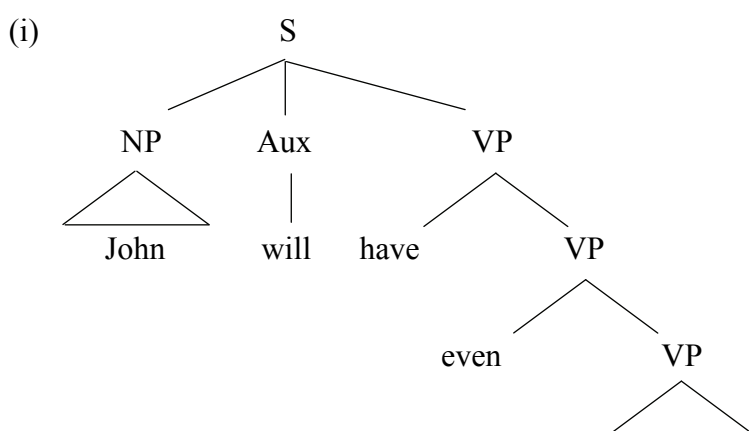
に新しい自転車をあげることさえした」というようなものであり、4) の解釈は「何か他にも出来事があったのだけれども、ジョンが自分の娘に新しい自転車をあげるという出来事さえあった」というようなものである。

【問題 1 0】 (p. 145)

(43) a. #JOHN will have even given his daughter a new bicycle.

b. John will have even given his DAUGHTER a new bicycle.

これらの文では、even が have と given には含まれていることから、以下のように動詞句に付加されていると考えられる。



そうすると、(39) の条件により、even は VP 内の焦点部分を修飾できることになる。(43b) ではこの VP 内の daughter に強勢が置かれ、daughter もしくは his daughter が焦点部分として正しく even に修飾される。これに対して、(43a) では、主語 NP John は、VP の外にあり、(39) の条件により、even の修飾対象とはなり得ない。本文で説明した通り、even は焦点部分と必然的に結びつくことが要求されるので、(43a) は変則的とみなされる。

【問題 1 1】 (p. 148)

(51) a. #I don't realize that he has gone away.

b. #I have no inkling that a surprise is in store for me.

(51a) の文では、「彼がいなくなってしまった」ことが真として前提とされているので、話者はその事実を知っているはずだが、それに対して、話者が「私はそれに気づいていない」と主張するのは、矛盾である。同様に、(51b) の文では、「ある驚きが私にやってくる」ことが真として前提とされているので、話者はその事実を知っているはずだが、それに対して、話者が「私はそれを全然わか

っていない」と主張するのは、矛盾である。

【問題 1 2】 (p. 149)

(54) a. They reported the enemy to have suffered a decisive defeat.

b. They reported the enemy's having suffered a decisive defeat.

(54b) では、report が動名詞句を選択しているので、これが表す命題である「敵が決定的敗北を帰した」ことが話者によって前提とされ、「その事実を彼らが伝えた」ことが主張されている。これに対して、(54a) では、report が to 不定詞節を選択しているので、「敵が決定的敗北を帰した」ことが話者によって前提とされている訳ではなく、単に「彼らがそのような内容を伝えた」と述べている。

(55) a. I remembered him to be bald (so I was surprised to see him with long hair).

b. I remembered his being bald (so I brought along a wig and disguised him).

(55b) では、remember が動名詞句を選択しているので、これが表す命題である「彼がはげていた」ことが話者によって前提とされ、「それを私が覚えていた」ことが主張されている。したがって、「それで、私はかつらを持ってきて、彼を変装させた」と続けることができる。これに対して、(55a) では、「彼がはげていた」ことが話者によって前提とされている訳ではなく、単に「私がそのように覚えていた」と述べている。したがって、「それで、私は彼が長髪にしているのを見て驚いた」と続けることができる。

第 5 章 話者の視点

【問題 1】 (p. 163)

(5b)??John's wife was hit by him. ??His wife was hit by John.

両文ともに、John's wife/his wife の表現から、John's wife よりも John にエンパシーが置かれていることがわかる。他方、これらの文は受動文であることから、John/him よりも John's wife/his wife にエンパシーが置かれることになる。したがって、これらの文では、エンパシーが一貫していないことから変則的であると言える。

【問題 2】 (p. 165)

- (13) a. 太郎は、花子が本をくれたので、花子にお金をやった。
b. #太郎は、花子が本をくれたので、花子にお金をくれた。
c. 太郎は、花子が本をやったので、花子にお金をくれた。
d. #太郎は、花子が本をやったので、花子にお金をやった。

「やる」と「くれる」のエンパシーの特性から、上の個々の文では、以下のエンパシー関係が成り立っている。

- (i) (13a): くれた: E(太郎) > E(花子), やった: E(太郎) > E(花子)
#(13b): くれた: E(太郎) > E(花子), くれた: E(花子) > E(太郎)
(13c): やった: E(花子) > E(太郎), くれた: E(花子) > E(太郎)
#(13d): やった: E(花子) > E(太郎), やった: E(太郎) > E(花子)

(13b) と (13d) の場合に、エンパシー関係が一貫しておらず、これが、これらの文の変則性を招いている。

【問題 3】 (p. 166)

- (15) a. 僕は太郎を助けてやった。
b. #太郎は僕を助けてやった。
(16) a. 太郎は僕を助けてくれた。
b. #僕は太郎を助けてくれた。

「やる」と「くれる」のエンパシーの特性から、上の個々の文では、以下のエンパシー関係が成り立っている。

- (i) (15a): やった: E(話者) > E(太郎)
#(15b): やった: E(太郎) > E(話者)
(16a): くれた: E(話者) > E(太郎)
#(16b): くれた: E(太郎) > E(話者)

(15a) と (16a) では、エンパシーが話者に置かれているのに対して、(15b) と (16b) では、エンパシーが話者以外に置かれている。したがって、本文の (12) より、(15b) と (16b) は変則的となる。

【問題 4】 (p. 166)

- (17) a. 太郎は [花子が(彼に)貸してくれた] 自動車を修繕してやった。
b. #太郎は [花子が(彼に)貸してくれた] 自動車を修繕してくれた。

c. 太郎は [花子が(彼に)貸してやった] 自動車を修繕してくれた。

d. #太郎は [花子が(彼に)貸してやった] 自動車を修繕してやった。

「やる」と「くれる」のエンパシーの特性から、上の個々の文では、以下のエンパシー関係が成り立っている。

(i) (17a): くれた: E(太郎) > E(花子), やった: E(太郎) > E(花子)

#(17b): くれた: E(太郎) > E(花子), くれた: E(花子) > E(太郎)

(17c): やった: E(花子) > E(太郎), くれた: E(花子) > E(太郎)

#(17d): やった: E(花子) > E(太郎), やった: E(太郎) > E(花子)

(17b) と (17d) の場合に、エンパシー関係が一貫しておらず、これが、これらの文の変則性を招いている。

【問題 5】 (p. 168)

(20a) では、「訪ねて来た」という表現により、エンパシーが訪問を受けた側の「ジョン」に置かれているが、「ジョン」は「自分」が指し示す人物でもあるので、エンパシーに関して矛盾は生じていない。これに対して、(20b) では、「訪ねて行った」という表現により、エンパシーが訪問者である「メアリー」に置かれているが、「自分」は「ジョン」を指し示すために、(19) の規定により、エンパシー関係に一貫性がないために、この文は変則的であるとみなされる。

【問題 6】 (p. 170)

(28) a. みゆきは陽一が彼女の父親を嫌っていると思っている。

b. みゆきは陽一が自分の父親を嫌っていると思っている。

本文に述べられたシナリオにおいて、(28a) は、「彼女の父親」が誰を指し示すかが話者によって決定される透明読みにおいて、真であるとみなしうる。これに対して、(28b) は、直接ディスコース分析により、以下のように分析される。

(i) みゆきは次のように思っている：「陽一が私の父親を嫌っている」

この解釈においては、「自分の父親」の透明読みは許されず、したがって、みゆきは、自分の信念において、「陽一が自分の父親を嫌っている」と思っている訳ではないので、(28b) は偽とみなされる。